

2004年9月末の台風21号の豪雨により生じた土石流の流下高を示す指標

＜ 柏 木 健 司 ＞



1. 上部を失った樹木群の定高性. 下流から上流側を見ている写真で, 樹木の高さはおよそ4-5mで揃っています.



2. チャートの露岩上に見られる礫層, および樹木の幹の間に挟まっている礫. 礫層と礫の分布高度は, 1の写真の樹木の高さと調和的で, おおよそ4-5mの範囲におさまります. 上流側から下流側を見えています.



3. チャートの露頭表面を覆うコケの定高性、高さ4-5m以下を境に、コケが見られません。1-3の写真から、土石流は現在の河床からおおよそ4-5mの高さで流下したと考えられます。



4. 土石流の流下方向を示す樹木の状況、樹木は、上流側でひどく損傷を受けて、一方の下流側では軽微な損傷にとどまっています。また、樹木のささくれは、一定して下流側を向いています。これらは、土石流が上流から下流に向かって流れ下ったことを示しています。